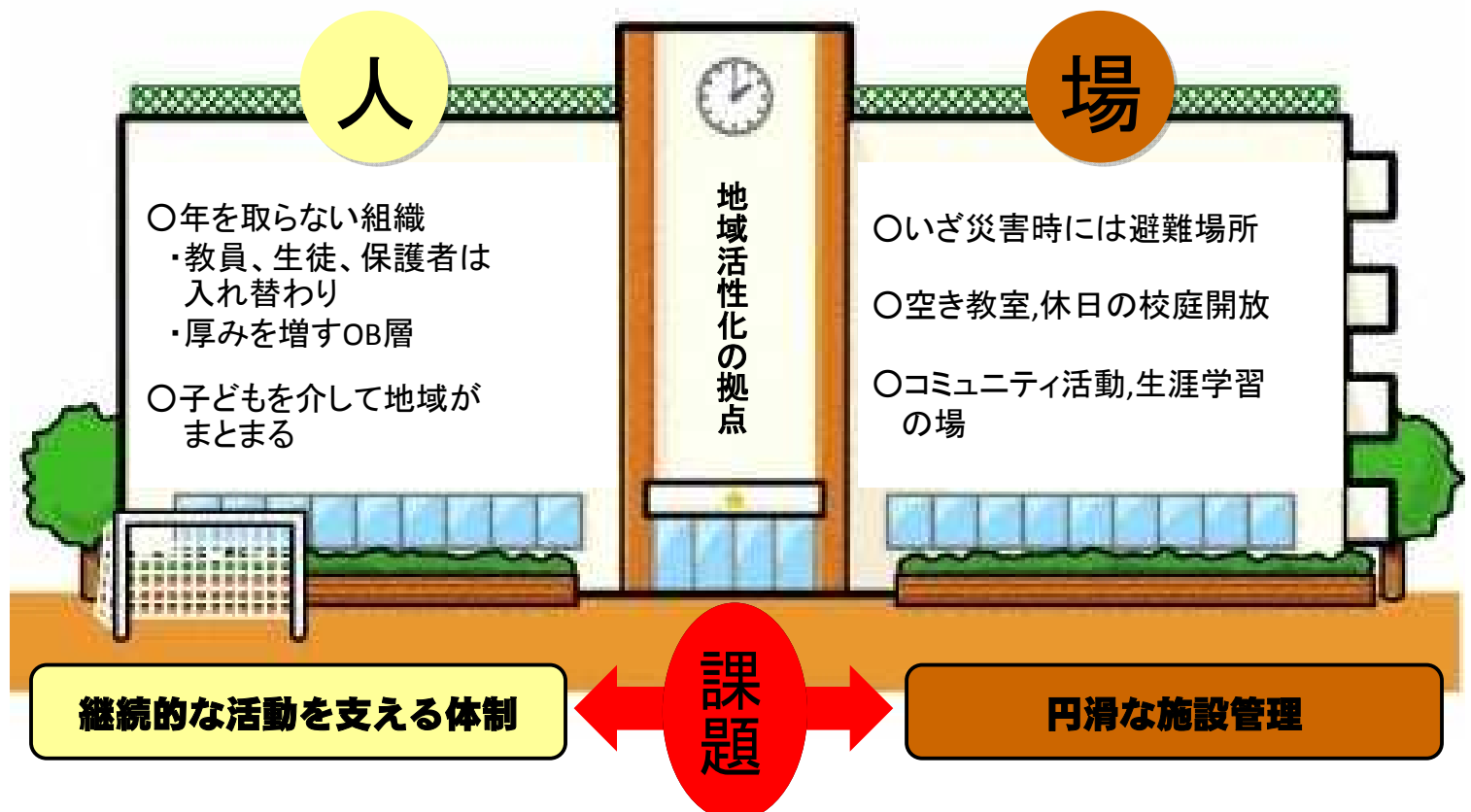


地域とともにある学校づくり推進協議会パネルディスカッション

地域とともにある学校づくり ～目指すべき学校運営の在り方～

平成24年12月4日
総務省地域力創造グループ地域自立応援課長
牧 慎太郎

学校を拠点とした地域づくり



地域活性化の拠点として学校を活用した地域づくりに関する調査

目的

本格的な少子高齢社会を迎え、過疎地域での人口減少、都市部での無縁社会化など地域を取り巻く厳しい状況のもと地域コミュニティの活性化が大きな課題となっている。学校の通学区域は地域コミュニティの重要な単位になると考えられ、少子化に伴う空き教室などを地域活動の拠点として効果的に活用する事例も増えている。また、職業科や学生寮を有する高等学校が地域活性化の拠点として大きな役割を果たしている例や、廃校となった学校が地域住民の心の拠り所となっている例も多い。そこで、地域活性化の拠点として学校を活用した持続可能な地域づくりに成功している事例を調査し、今後、各地域で地域活性化を図るため同旨の取組を促進していく上での課題や求められる施策等について整理し、情報提供することを目的とする。

調査の概要

地域活性化の拠点として学校を活用した持続可能な地域づくりに成功しているモデル事例を小学校、中学校、高等学校、廃校活用の別に全国から集め、有識者研究会を設置して調査・分析する。その中で、代表的な10事例について、有識者の同行のもとでヒアリングを含む現地調査を実施するとともに、40事例について文献等調査を実施。地域活性化の拠点として学校を活用した持続可能な地域づくりの条件について検証、提言を行い、平成24年度中に報告書を作成。

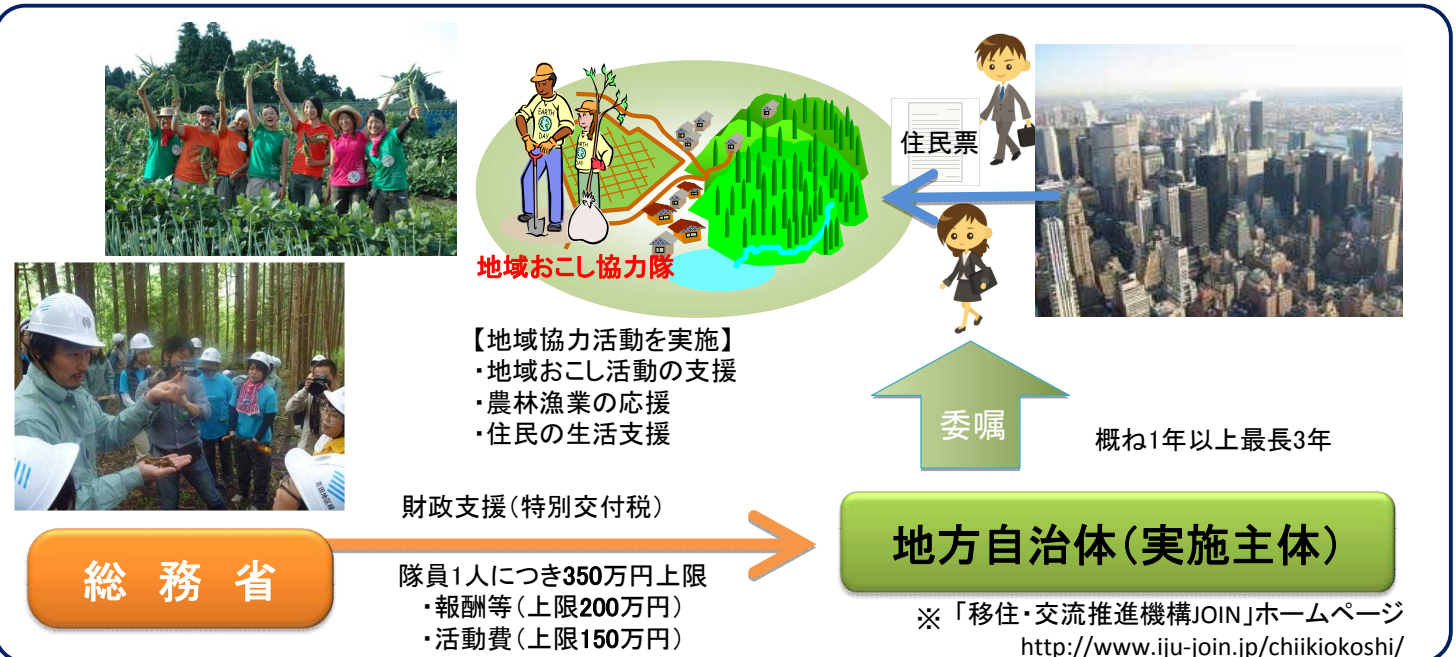
現地調査候補事例

分類	地域	対象
小学校	大館市(秋田県)	釈迦内小学校
	習志野市(千葉県)	秋津小学校
	那覇市(沖縄県)	銘苅小学校
中学校	上越市(新潟県)	城北中学校
	海士町(島根県)	海士中学校
	たつの市(兵庫県)	龍野北高等学校
高校	多気町(三重県)	相可高等学校
	黒潮町(高知県)	大方高等学校
	那智勝浦町(和歌山県)	籠ふるさと塾
廃校	勝浦町(徳島県)	ふれあいの里さかもと

調査の視点

- ・地域住民が運営に参加し、行政や民間企業などとも継続的に連携を図るなど、活動がどのように地域に根付いているか
- ・教員、生徒、保護者等の入れ替わりがある中で、運営のための組織づくりを行うなど、持続可能な取組となるようどのような工夫がなされているか
- ・地域住民が学校施設を活用するにあたって、どのようにして施設管理を行っているか 等

「地域おこし協力隊」制度について



隊員数 473名
173自治体
(4府県・169市町村)
※H24.7.1時点

男 : 女
6 : 4

20歳代と30歳代で
全体の約8割

任期終了後
約7割が定住
※H24.1末時点

集落支援員について

集落支援員

地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員と連携し、集落への「目配り」として集落の巡回、状況把握等を実施

※平成23年度 専任の「集落支援員」の設置数 **602人**

※ 自治会長などとの兼務の集落支援員の設置数 **3,600人**程度

・地方自治体⇒集落支援員を設置し、集落支援員と協力して集落対策を推進

・総務省⇒地方自治体に対して、財源手当(支援員一人当たり350万円(他の業務との兼任の場合一人当たり40万円)を上限に特別交付税措置)、情報提供等により支援

※特別交付税の対象経費…集落支援員の設置に要する経費・集落点検の実施に要する経費・集落における話し合いの実施に要する経費

※この対策は、過疎地域に所在する集落や、高齢者比率が一定以上の集落など特定の集落に限定していない。(参考)総務省通知(平成20年8月1日総行過第95号)

地方自治体の取組のフロー

■集落支援員の設置

- ・地方自治体の委嘱により「**集落支援員**」を設置。
- ・集落支援員は、市町村職員とも連携し、集落への「目配り」として、集落の巡回、状況把握等を行う。

集落支援による支援

■集落点検の実施

- ・集落支援員は、市町村職員と協力し、住民とともに、**集落点検**を実施
- ※点検項目の例:「人口・世帯数の動向」、「通院・買物・共同作業の状況、農地の状況」、「地域資源、集落外との人の交流、Uターン、他集落との連携の状況」、など

■集落のあり方についての話し合い

- ・住民と住民、住民と市町村との間で集落の現状、課題、あるべき姿等についての**話し合い**を促進(「集落点検」の結果を活用)
- ・話し合いに当たり、実施時期・回数・参加者などを検討したり、集落支援員、市町村、住民や外部有識者の参加を求めるなど、行政との「話し合い」を実施

《 集落点検や話し合いを通じ必要と認められる施策 》

- ①デマンド交通システムなど地域交通の確保、②都市から地方への移住・交流の推進、③特産品を生かした地域おこし、④農山漁村教育交流、⑤高齢者見守りサービスの実施、⑥伝統文化継承、⑦集落の自主的活動への支援 等

積極的に実施

支援

総務省

地域おこし協力隊・集落支援員 取組事例(学校等を拠点とした活動)

新潟県十日町市【地域おこし協力隊】

【概要】

17名の地域おこし協力隊を委嘱。地区ごとに活動に取り組んでいる。

【活動内容】

- ・農業体験や牛・鶏の飼育体験等から子ども達に命の大切さを教える。
- ・わらじ作りなどの伝統的技術を、実演も含めて紹介。
- ・学校と相互にアイデアを出し合いながら、運動会や文化祭などの学校行事に参加してサポート。

【ポイント】

- ・地元の人では気づきにくい地域の資源を子ども達に伝えることで、地域への愛着や担い手としての自覚ができる。
- ・教師だけでは対応出来ない実技体験を展開できる。



島根県海士町【地域おこし協力隊】

【概要】

4名の地域おこし協力隊を受け入れ。教育分野で3名が活躍。

【活動内容】

- ・町内学校に常駐し、部活動や学校事務の補助、家庭教師などを行い、きめ細やかな教育フォローを実施。
- ・都市の中高生を対象とした観光プランを立案。
- ・地域のボランティア活動や祭りにも参加。
- ・海藻資源を利用した商品開発や、海藻をキーワードにした低炭素社会確立に向けた取り組み。

【ポイント】

- ・教育に特化した協力隊の活躍により、廃校・廃寮の危機に追い込まれた学校・寮を復活させ、今では多くの生徒が都市部から入学するようになった。



鹿児島県瀬戸内町【地域おこし協力隊】

【概要】

2名の女性に地域おこし協力隊を委嘱。離島の中の離島である加計呂麻島で地域協力活動に取り組んでいる。

【活動内容】

- ・島内学校の運動会や学習発表会などの行事の手伝い。
- ・学校のない集落に防災無線で子ども達の合唱や楽器演奏を放送。
- ・昆虫に詳しい地域の人による子ども向けの昆虫教室を開催。
- ・スキューバの資格を活かし、子ども達にシュノーケリングを指導。

【ポイント】

- ・静まりかえった集落に子ども達の声が響き、お年寄りの元気に繋がっている。
- ・ヨソ者を強みに地域の人々との関係を広げている。



広島県神石高原町【集落支援員】

【概要】

専任の集落支援員36名を委嘱。地域おこし協力隊と連携した活動を展開。

【活動内容】

○廃校を利用し、『小野尋常農業小学校』を開校

- ・集落支援員が企画・運営。
- ・町内に加え、県内都市部の小中学生とその保護者を対象。
- ・植え付けと収穫だけの体験型ではなく、その間の食物の生育プロセスに沿ったカリキュラムで「農」を学習。

【ポイント】

- ・集落の実態を十分把握した上での発展的取組。
- ・生徒はもちろん、講師も含め、都市との交流によるネットワーク構築を図るとともに、長期継続により、集落で活躍する人材の育成に繋げている。



兵庫県 県民交流広場

【目的】

県民一人ひとりが、身近な地域を舞台に多彩な分野で地域づくり活動に取り組むための場づくりと活動を応援し、県民の参画と協働による元気と安心のコミュニティづくりを広げていく。

訪れ、集う空間としての
コミュニティの『場』

+

『場』を生かした
手づくりの『活動』

=

県民交流広場

○ 対象事業

- ・コミュニティが取り組む活動の場の整備
- ・新たな地域づくり活動の立ち上げや充実

○ 助成対象

小学校区の住民組織

○ 助成内容(1小学校区あたりの上限額)

整備費1,000万円、活動費300万円

(概ね5年間で毎年度必要額を助成)



子ども農山漁村交流プロジェクトとは

意義

- ・農山漁村での様々な体験を通じた子どもたちの生きる力の育成。
- ・「コミュニケーション能力」「自主性・自立心」「学習意欲」などが向上。注)
- ・都市と農山漁村の交流を創出することによる農山漁村地域の再生や活性化。

内容

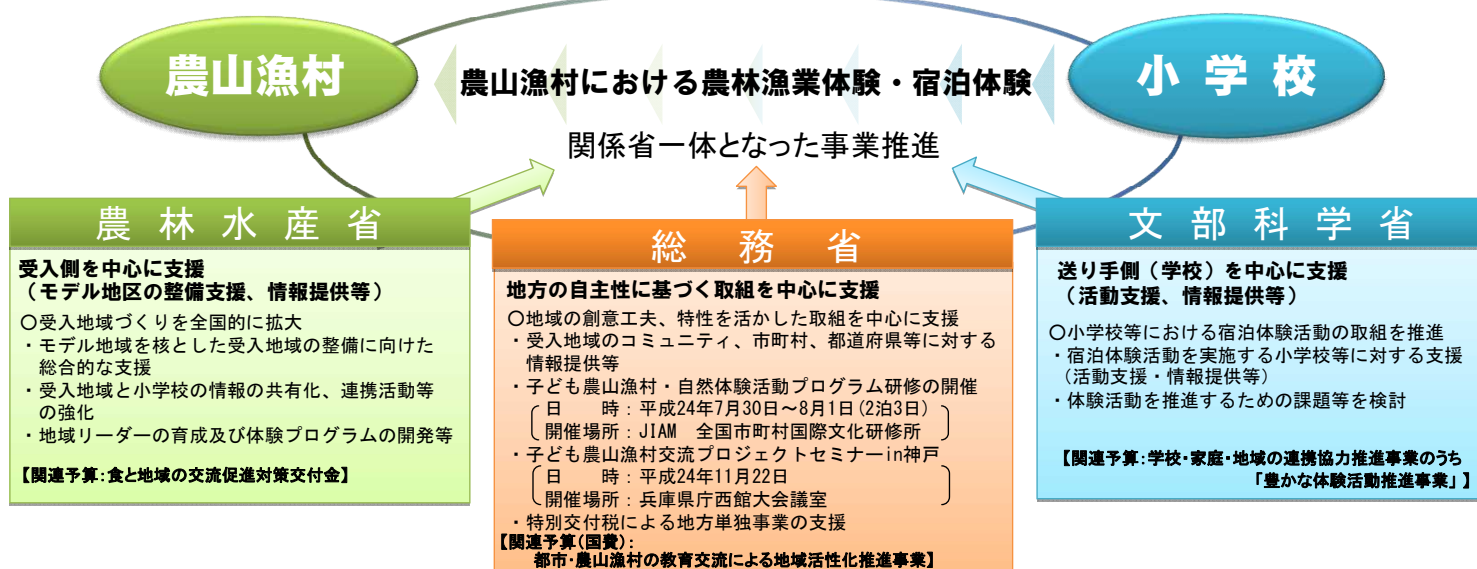
- ・小学校の児童が行う宿泊体験活動。
- ・農山漁村での自然体験や農林漁業体験等を行う機会が確保されているもの。

目標

- ・平成25年度において、全国の小学校の一学年規模が体験活動をすることを目指す。

注) 農山漁村での3泊4日以上活動は、より高い効果を示している。

(「農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について(報告)」H21.12 文部科学省「農山漁村での長期宿泊体験による教育効果評価委員会」)



子ども農山漁村交流プロジェクトの事例

飯田市(長野県)における子ども農山漁村交流プロジェクト

概要

飯田市立浜井場小学校(長野県)が、市内の中山間地域に宿泊をとまなう農山村・伝統文化体験活動を実施。

内容

活動場所

・飯田市上村・南信濃地区(遠山地区)

日程

5月 宿泊体験の事前学習(日帰り)
7月 下栗地区での農家宿泊 (1泊2日)
11月 木沢地区での農家宿泊 (1泊2日)
12月 木沢中立地区霜月祭に参加 (1泊2日)
2月 遠山地区の皆さんを招待して交流会

活動内容

・木沢地区の廃校(旧木沢小学校)を教室にした事前学習
・下栗・木沢での農作業体験・農家宿泊・木沢地区に伝わる霜月祭(国指定重要無形民俗文化財)に参加

ポイント

・(1泊2日)×3回で、教師の負担を軽減
・地区と学校の調整を行うコーディネーターの設置



秋田県における子ども農山漁村交流プロジェクト

概要

秋田県が、「秋田発・子ども双方向交流プロジェクト」として、都市(東京・千葉・埼玉)と秋田県の小学生交流を実施(H22年度8校)

内容

活動場所

・東京・千葉・埼玉
・秋田県内

日程

・都市部(東京・埼玉・千葉県)の訪問 (2泊3日)
・秋田県での交流 (2泊3日)

活動内容

・都市部: 都市生活体験(ホームステイ)
・秋田県: 農村生活・雪国生活体験(民泊)

ポイント

・都市と地方の交流を通じて地域の魅力を再発見
・知事部局と教育委員会との連携による推進
・モデル事業による成果と課題の把握を元に次年度の事業を展開



西条市(愛媛県)における子ども農山漁村交流プロジェクト

概要

西条市立飯岡小学校(愛媛県)が、夏期休業中に4泊5日の体験活動を実施。

内容

活動場所

・石鎚ふれあいの里、西条市丹原町
(西条市グリーン・ツーリズム協議会)

日程

・8月夏期休業中 4泊5日
1～2日目 石鎚ふれあいの里において自然体験(石鎚登山、星の観察、野外炊事、川の観察等)
3～5日目 丹原町において農業体験・農家民泊(ブドウ手入れ、ブルーベリー収穫、ヤギの世話等)

活動内容

・自然体験と農業体験を組み合わせた集団宿泊活動
・グリーンツーリズム受入の経験が豊富な農家に農家民泊(2泊)

ポイント

・夏期休業中であることを活かして教員養成学部生にボランティアを要請。また、他学年の教師にも応援を要請
・市のグリーンツーリズム協議会が農家と学校の仲介役に



京都市(京都府)における子ども農山漁村交流プロジェクト

概要

京都市内の全小学校(173校)の5年生(原則)が、1週間程度の宿泊型自然体験活動を実施(長期宿泊・自然体験推進事業)

内容

活動場所

・京都市野外活動施設 花背山の家 他

日程

4泊5日または5泊6日
4泊5日の例
1日目 入所式、魚つかみ、魚さばき体験、野外炊事
2日目 ハイキング、野外炊事、天体観察
3日目 民泊の方との対面式・交流会、各民家でのプログラム・夕食、民泊
4日目 川遊び体験、民泊の方のお別れ会、キャンプファイヤー
5日目 フィールドアスレチック、退所式

活動内容

・自然のよさを生かした様々な体験活動(野外活動、登山、天体観察、農業林業体験、民泊等)
・規律正しい集団生活と生活習慣の確立を図る活動(テント泊、野外炊事、清掃活動等)

ポイント

・学校運営協議会、学校支援ボランティア、学生ボランティア、地元自治振興会等の参画により地域と共同で実施
・子ども同士のみならず、先生、ボランティア、地域住民など様々な人との交流による豊かな社会性の育成
・地元自治振興会と教育委員会との間で定例連絡会を設置し、民泊等の共同プログラムを開発
⇒ 受入可能な場合には日程に民泊(豊かな体験活動推進事業)を組み込む

